平 成 ２ ６ 年 度
広島市教育センター

幼児のソーシャルスキルを向上させるための援助に関する研究

－ソーシャルスキルの尺度と教師の援助を関連付けた表を通して－

広島市立中筋幼稚園教諭　二 川 さ ゆ み

研究の要約
本研究は，幼児の状況に応じた援助をすることで，幼児のソーシャルスキルを向上させることを目的としたものである。その際，「幼児のソーシャルスキルの尺度と教師の援助を関連付けた表」を作成し，活用した。
その結果，表をもとに幼児の状況に応じた援助をすることで，幼児が役割を遂行したり，自分から話し掛けたりするなど，ソーシャルスキルの向上が見られた。また，教師間で共通認識することで，よりよい援助をすることにつながった。

キーワード：ソーシャルスキル，援助，
ソーシャルスキルの尺度と教師の援助を関連付けた表

Ⅰ　問題の所在

文部科学省の『幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続の在り方について』では，幼児期と児童期が共通して抱える課題の一つとして，他者とのかかわりが苦手であることや，自制心や耐性，規範意識が育っていないことが挙げられている。また，小学１年生などの教室において，学習に集中できない，教員の話が聞けずに授業が成立しない，学級がうまく機能しないなど，いわゆる「小１プロブレム」の状況にある学校が見られると報告されている。

『小学校学習指導要領解説』では，特別活動の具体的事項として，「小１プロブレムなどの集団の適応にかかわる問題を重視し，よりよい人間関係を築くための社会的スキルを身に付けるための活動を効果的に取り入れる」[1)] と示している。また，『幼稚園教育要領解説』では，小学校への入学を念頭に，皆と一緒に教師の話を聞いたり，行動したり，きまりを守ったりすることができるように指導を重ねていくことも大切であると示され，幼児期から人とかかわる力を身に付けさせる重要さについて述べている。

所属園においては，友達と遊んでいる時，突然，遊具を持っていく，話をしているところに割り込んでくるなど，人とのかかわりにおいて上手くコミュニケーションが取りにくく友達とトラブルになりやすい幼児がいる。また，話しかけられても黙っていたり、ちぐはぐな応答をしたりするなど，自分の思いを上手く表現できない幼児もいる。さらに，注意散漫で話を聞きにくい姿も見られる。その都度，相手の思いを代弁する，人とのかかわり方を伝える，場に応じた態度を知らせるなどしてきたが，同じような姿が続いている。

田中（2012）は，幼児期に重要な，人への信頼感と自己肯定感を培うための手だてとして，対人コミュニケーションとしてのソーシャルスキルを育成することや，ソーシャルスキルを指導し，成功体験を積み重ねることでスキルを自分なりに使えるようになることを挙げている。

幼児のソーシャルスキルを向上させるためには，どのような援助をし，個別にかかわっていくかが重要であるが，複数の教員でかかわることの多い幼稚園では，同じ視点で幼児をとらえ，同じ視点でかかわることが難しい。このような現状を踏まえ，幼児のソーシャルスキルの尺度と幼児の状況に応じた教師の援助を関連させて見ることができれば，同じ視点で見取りやすくなるため，より連携した保育が可能になると考えた。

そこで本研究では，ソーシャルスキルに着目し，「幼児のソーシャルスキルの尺度と教師の援助を関連付けた表」（表６）を作成し，幼児のソーシャルスキルを向上させるためのよりよい援助について研究することとした。

Ⅱ　研究の目的

幼児のソーシャルスキルの尺度と教師の援助を関連付けた表を作成し，幼児の状況に応じた援助をすることで，幼児のソーシャルスキルを向上させることを目的とする。

Ⅲ　研究の方法

１　研究主題に関する基礎的研究
２　「幼児のソーシャルスキルの尺度と教師の援助を関連付けた表」について
３　検証保育の計画と実践
４　保育実践の分析と考察

Ⅳ　研究の内容

１　研究主題に関する基礎的研究

(1) 幼児におけるソーシャルスキル

ソーシャルスキルとは，「対人関係をスムーズにするための知識と具体的な技術＝人づきあいのコツ」[2] であり「社会生活や対人関係を営んでいくために，必要とされる技能」[3] である。

『幼稚園教育要領解説』では，幼稚園では，生きていくための基礎を培うために人とかかわる力などをはぐくむことや，そのため生活に必要な習慣や態度を身に付けていくことが大切であると述べている。

(2)　教師の役割

『幼稚園教育要領解説』では，幼稚園教育は，環境を通して行う教育で，教師の担う役割は大きいことや，教師が幼児のありのままを受け入れ，共感し，幼児との信頼関係を十分に築くことが大切であると述べている。また，教師の役割については次のように書かれている。

・幼児の活動の理解者としての役割
・幼児の共同作業者，幼児と共鳴するものとして
の役割
・憧れを形成するモデルとしての役割
・遊びの援助者としての役割
・環境の構成者としての役割

ヴィゴツキーは，教師は「環境を変えることで子どもを教育する」[4] ことや，発達における教授の役割の一つとして「成熟中の段階にあったり，『発達の最近接領域』にある一連の機能を呼び起こし，活動させる」[5] ことがあると述べている。保育では，教師が直接援助することのみでなく，子ども同士が育ち合う環境を用意し見守ることも教師の役割と言える。（図１）

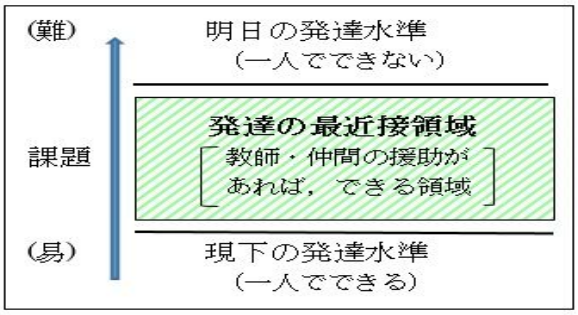


図１　　発達の最近接領域

(3)　教師の援助

教師は一人一人の発達の特性に応じた指導や必要な経験を得られるように援助を行う必要がある。『幼稚園教育要領解説』では，「いつどのような援助を行うかは状況に応じて判断することが重要である」[6]，また，適切な援助を行うためには，教師と幼児の信頼関係を築き，幼児の行動を見ながら心に寄り添い，受け入れ，共感することが必要であると述べている。さらに，幼児は教師の日々の言動をモデルとして多くのことを学んでいくと述べており，教師は幼児のよきモデルとしての大きな役割を果たしている。また，ヴィゴツキーは，子どもの発達にともなって教授の形態も変わることを述べている。

(4) ソーシャルスキルの指導技法と評価

岡田 (2006) は，ソーシャルスキル尺度とは，社会性に困難をもつ児童を指導する際に，子どもの目標となるスキルを特定化するものであると述べている。尺度は「集団行動」「セルフコントロール」「仲間関係」「コミュニケーションスキル」の４つの項目で構成され，育てたい部分を重点的に指導する。

上野一彦・岡田智　編著『ソーシャルスキルマニュアル』では，ソーシャルスキルの指導技法として「教示」「モデリング」「リハーサル」「フィードバック」「般化」を挙げており，それらを組み合わせ，繰り返し指導を行うことが効果的であると述べている。また，指導するに当たり，子どもの意欲を高め，スキルの向上につながる要素として，どんなところがよかったか，また，どうすればもっとよくなるかを即時に評価す

ることを挙げている。それらを参考にまとめると，図２のようになる。

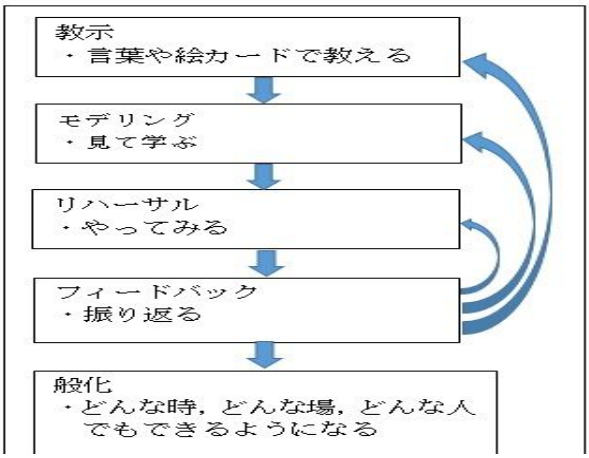


図２　ソーシャルスキルの指導技法

２　「幼児のソーシャルスキルの尺度と教師の援助を関連付けた表」について

「幼児のソーシャルスキルの尺度と教師の援助を関連付けた表」(表６) とは，田中 (2012) を参考に，岡田（2006）の「ソーシャルスキル尺度小学生用」を幼児用に一部変更したものに，望ましい姿に導くための教師の教示やモデリングの援助と，行動したことに対する評価の援助を，関連付けて作成したものである。田中（2012）は，上手くいったときに褒める，上手くいかなかった時にどうすればよかったかを導くことを丁寧に行い，成功体験を積ませることが有効であると述べている。そこで，本研究においても援助の内容にプラスの評価を重点的に記述するようにした。また，実際の援助場面では，幼児の最近接領域をとらえ，めあてを見極め，状況に応じた援助を行うが，幼児の内面を読み取りながら援助を変えたり，減らしたりすることを意識した。

４つの項目「集団行動」「セルフコントロール」「仲間関係スキル」「コミュニケーションスキル」には，それぞれ身に付けたいスキルがあり，それは『幼稚園教育要領解説』に記されていることと関連しており，表１のようにまとめられる。

表１　ソーシャルスキルの項目と『幼稚園教育要領解説』との関連

	身に付けたいスキル	幼稚園教育要領解説より	頁
集団行動	学校生活や集団行動などフォーマルな人間関係に必要なスキル	・よいことや悪いことに気付き，考えながら行動したり，きまりの大切さに気付き，守ろうとするなど，生活のために必要な習慣や態度を身に付けていく	90
		・いろいろな遊びを楽しみながら物事をやり遂げようとする気持ちをもつ	94
		・様々な心を動かす出来事を友達と共有し，相手の感情にも気づいていくことができるようになる	96
		・相手の思っていることに気付く	97
		・友達と楽しく生活する中できまりの大切さに気付き，守ろうとする	105
		・集団生活を通して，体験を重ねながら規範意識の芽生えを培う	116
		・生活の中で必要な言葉が分かり，使う。	145
セルフコントロール	行動，注意，衝動性，感情などの自己統制に関するスキル	・自己発揮と自己抑制の調和のとれた自立性を育てる	99
		・自分の気持ちを調整しつつ周囲との関係を作ることができるようになる	104
		・みんなと一緒に教師の話を聞いたり，行動したり，きまりを守ったりすることができる	221
仲間関係	友だち関係を維持したり，友情を深めたりするのに必要なスキル	・友達のよさに気付き，一緒に活動する楽しさを味わう	99
		・友達とのかかわりを深め，思いやりをもつ	104
		・人とのかかわりでは，見つめ合ったり，うなずいたり，微笑んだりなど，言葉以外のものも大切である。	138
		・親しみをもって日常のあいさつをする	146
コミュニケーション	会話，話し合い，自己表現など意思伝達手段に関するスキル	・自分の思ったことを相手に伝え，相手の思っていることに気付く	97
		・幼児は自分の気持ちや考えを言葉で人に伝える表現の仕方を学んでいく	141
		・自分のわからないことや知りたいことなどを，相手に分かる言葉で表現し，伝えることが必要である	143
		・人の話を注意して聞き，相手にわかるように話す。	144

ソーシャルスキル尺度は，それぞれの項目の点数を合計し，換算表にて評価点に換算した。評価点の最高は，15 点である。

３　検証保育の計画と実践

(1)　目的

「幼児のソーシャルスキルの尺度と教師の援助を関連付けた表」（表６）をもとに対象児Ａ児，Ｂ児の行動を見取り，教師の援助について分析，考察する。

(2)　対象

広島市立中筋幼稚園５歳児抽出児（Ａ児・Ｂ児）

(3)　期間

平成 26 年 12 月５日（金）～平成 27 年１月 14 日（水）

４　実践についての分析と考察

(1)　抽出児の分析・考察方法

ア　抽出児（A児・B児）を観察し，「幼児のソーシャルスキルの尺度と教師の援助を関連付けた表」（表６）の評定をつけ教師の視点を確認する。

イ　抽出児（A児・B児）に対して，「幼児のソーシャルスキルの尺度と教師の援助を関連付けた表」（表６）に沿って，その場に即した援助を行う。

ウ　保育カンファレンスを行うとともに，ＶＴＲで抽出児の様子を振り返り，教師の視点を再確認する。

エ　「幼児のソーシャルスキルの尺度と教師の援助を関連付けた表」（表６）とＶＴＲから，再び評定をつけ，行動や内面を分析し考察する。

(2) 抽出児（A児）について

ア　A児の姿

A児の指導前のソーシャルスキル尺度の評価点は表２のとおりである。普段の様子では，思いを言葉で伝えることが難しく，自分の思いと違ったり，いやなことがあったりすると，怒る，すねる，泣くなどで表現する。また，注意散漫で話を聞きにくい姿が見られる。そこで，セルフコントロールを中心に，集団行動とコミュニケーションにおいて重点的に援助することとした。なお，【】内は，表６の関係する項目を表している。

表２　A児の指導前のソーシャルスキル尺度の評価点

幼児名	集団行動	セルフコントロール	仲間関係	コミュニケーション
	対人マナー 状況理解・こころの理論 集団参加 役割遂行	感情のコントロール 行動のコントロール	仲間関係の開始 仲間関係の維持	聞く 話す アサーション 話し合い
	指導前	指導前	指導前	指導前
A	1	1	1	1
	それぞれの項目の最高は15点			

イ　A児のねらい

・　いやなことがあったら，怒ったりすねたりしない。　【セルフコントロール（感情）】

・　いやな思いを自分から教師に伝えることができる。【コミュニケーション（アサーション）】

・　最後まで話を聞いたり活動をしたりすることができる。　【集団行動（役割）】
【セルフコントロール（行動）】

ウ　A児への援助

・　「～がいやだった。」など，伝え方の具体を教える。　【セルフコントロール（感情）】
【コミュニケーション（アサーション）】

・　イラスト入りの１日の流れを表示し，活動に見通しをもたせる。　【集団行動（状況）】

・　言葉だけでなく，掃除の仕方などをやってみせたり，一緒に行ったりするなど，やり方の具体を示す。　【集団行動（役割）】

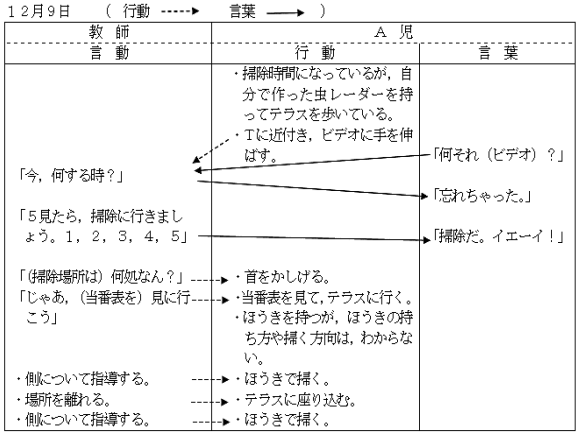
・　できたことや頑張ったことを具体的に褒め，自信をもたせる。　【集団行動（役割）】
【セルフコントロール（行動）】

エ　実践事例

A児の掃除時間の様子は，以下のとおりである。

【１２月９日】

A児は，掃除時間であることや掃除場所，ほうきの持ち方などが分かっていない。教師が側にいないと，掃除をやめる。

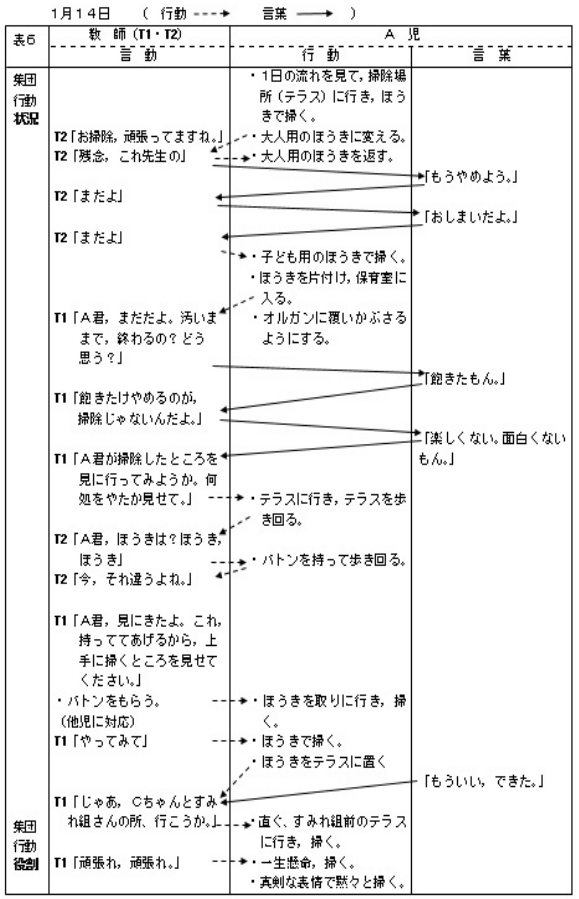


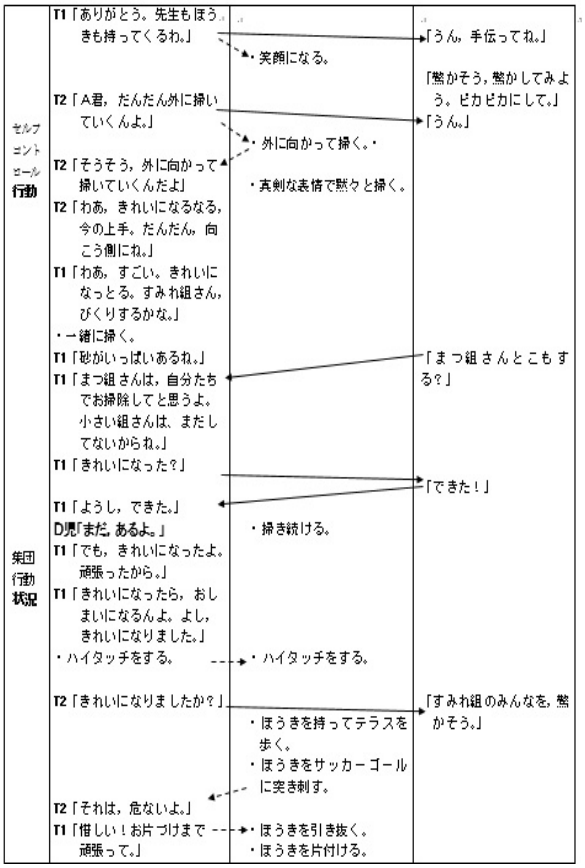
保育カンファレンスで確認したこと

- ○ イラスト入りの１日の流れを表示し，活動に見通しをもたせる。
- ○ 全体の指導とともに，個別にかかわり，共感的な言葉がけをしていく。
- ○ 掃除の仕方をやってみせたり，一緒に行ったりする。
- ○ 「きれいになった」と伝えたり，ハイタッチをするなど，達成感が味わえるようにする。
- ○ きれいになったら終わりなど，終わりを明確に伝える。

【１月１４日】

A児は，イラスト入りの１日の流れの表示を見て，自分から掃除を始めるが，飽きてやめる。その後，教師とのやりとりで，気持ちを切り替え，再び掃除を始める。さらに，年少組の前をきれいにしようという教師の提案から，教師と一緒に最後まで掃除をした。その際，担任（Ｔ１）と補助教員（Ｔ２）がかかわった。





オ　A児のソーシャルスキル尺度の評価

A児の指導前と指導後のソーシャルスキル尺度の評価点は表３のとおりである。

表３　Ａ児の指導前と指導後のソーシャルスキル尺度の評価点

幼児名	集団行動		セルフコントロール		仲間関係		コミュニケーション	
	指導前	指導後	指導前	指導後	指導前	指導後	指導前	指導後
	1	1	1	2	1	1	1	2

カ　分析・考察

A児は，表３のようにセルフコントロール・コミュニケーションにおいて評価点の上昇が見られた。

掃除時間に，A児は何をする時か，どの場所を掃除するのか分かっていなかったので，イラストが入った１日の流れを掲示したところ，A児が掲示を見てスムーズに掃除に取り掛かることができた。また、A児の「やめよう」「飽きた」という思いを受け止め，個別に寄り添う援助をしたところ，A児が気持ちを切り換え，教師と一緒に最後まで係の仕事をやりとげることができた。さらに,「(年少組を) 驚かそう。ぴかぴかにして」と言ってテラスを掃くなど，自発的な言動が見られた。これらは，教師に受け止めてもらえる安心感からA児が安定したことが要因と考えられる。以上のように，評価点の上昇とA児の姿から，ソーシャルスキルが向上したと考えられる。

(3) 抽出児（B児）について

ア　B児の姿

B児の指導前のソーシャルスキル尺度の評価点は表４のとおりである。普段の様子では，自分の思いを表出しにくく，表情も硬いことが多い。また，わからないことを質問したり，遊びに誘ったりするのに時間がかかり，自分から遊びに入ることも困難である。教師や友達と一緒に遊んでいても，自分から話しかけることは少なく，話し掛けられると単語で答えたり，首を振って意思表示をしたりすることが多い。尺度の評価では，B児はセルフコントロールが５点である。全体は 15 点満点であり，５点の項目は主に感情のコントロールであることから，自分の思いを表出しにくく自己抑制をしているためであると考えた。そこで，仲間関係とコミュニケーションにおいて重点的に援助することとした。

表４　B児の指導前のソーシャルスキル尺度の評価点

幼児名	集団行動	セルフコントロール	仲間関係	コミュニケーション
	対人マナー 状況理解・こころの理論 集団参加 役割遂行	感情のコントロール 行動のコントロール	仲間関係の開始 仲間関係の維持	聞く 話す アサーション 話し合い
	指導前	指導前	指導前	指導前
B	1	5	1	1
	それぞれの項目の最高は 15 点			

イ　B児のねらい

・　言葉を掛けて遊びに入ったり，質問したりすることができる。　【仲間関係（開始)】【コミュニケーション (アサーション)】

ウ　B児への援助

・　「入れて」「一緒にしよう」「～はどうするの」など，伝え方の具体を教える。

【仲間関係（開始)】【コミュニケーション (アサーション)】

・　B児の思いに寄り添い，教師との信頼感を深める。

・　自分から言葉を掛けて遊びに入ったり，質問したりした姿を具体的に褒める。

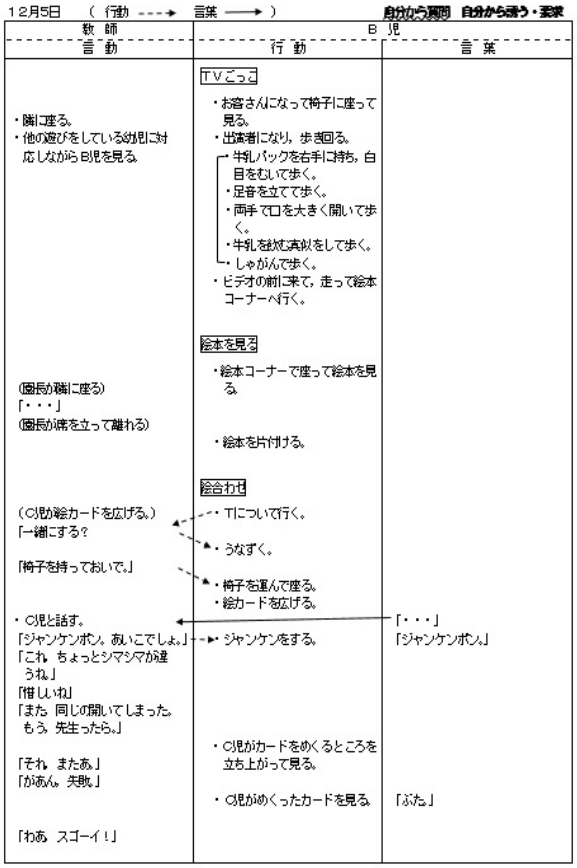
【仲間関係（開始)】【コミュニケーション (アサーション)】

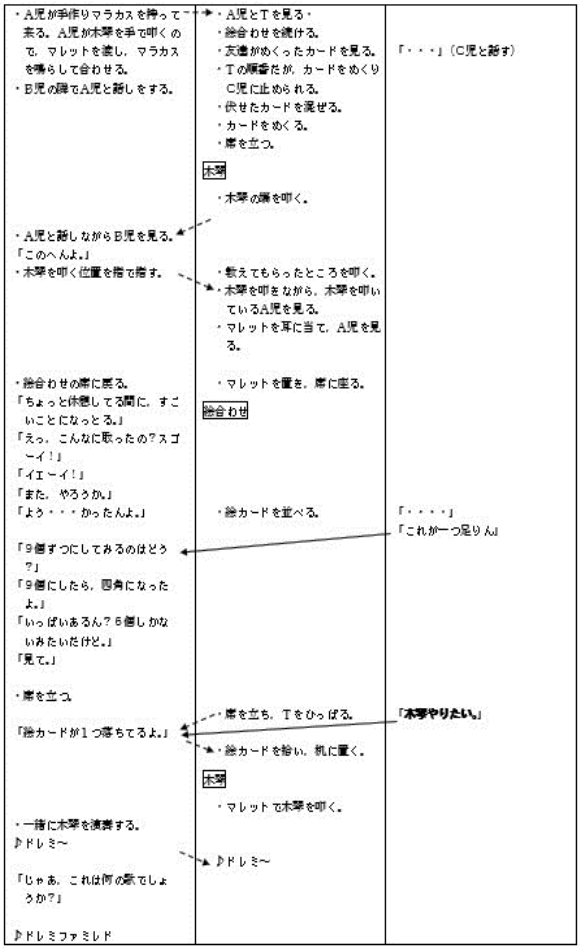
エ　実践事例

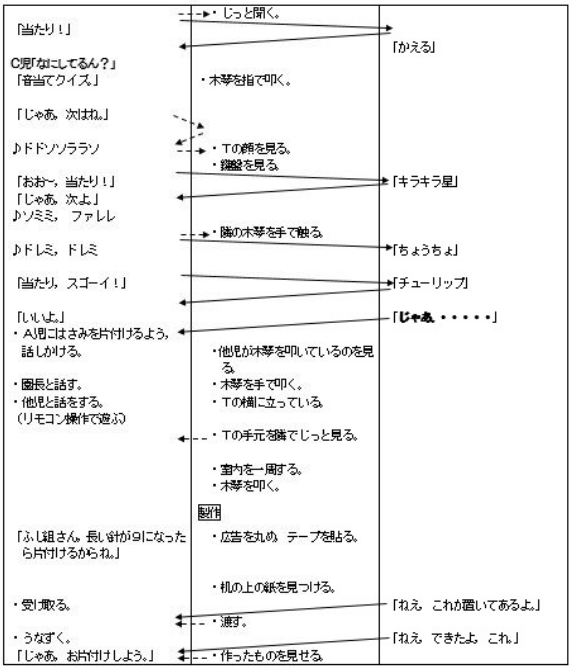
B児の食後の遊び時間（30 分間）の様子は，以下のとおりである。

【１２月５日】

B児は教師と一緒に遊ぶことが多く，クイズ以外での発語は少ない。また，教師の誘いで友達と一緒に遊び始めるが，教師が遊びから離れると遊びをやめ，一人で遊ぶ。







保育カンファレンスで確認したこと

- ○　「入れて」「一緒にしよう」「～はどうするの」など，伝え方の具体を教える。
- ○　B児の思いを受け止め，寄り添う。
- ○　個別に声を掛けたり，一緒に活動したりする。
- ○　自分から言葉を掛けて遊びに入ったり，質問したりした姿を具体的に褒める。

【１月９日】

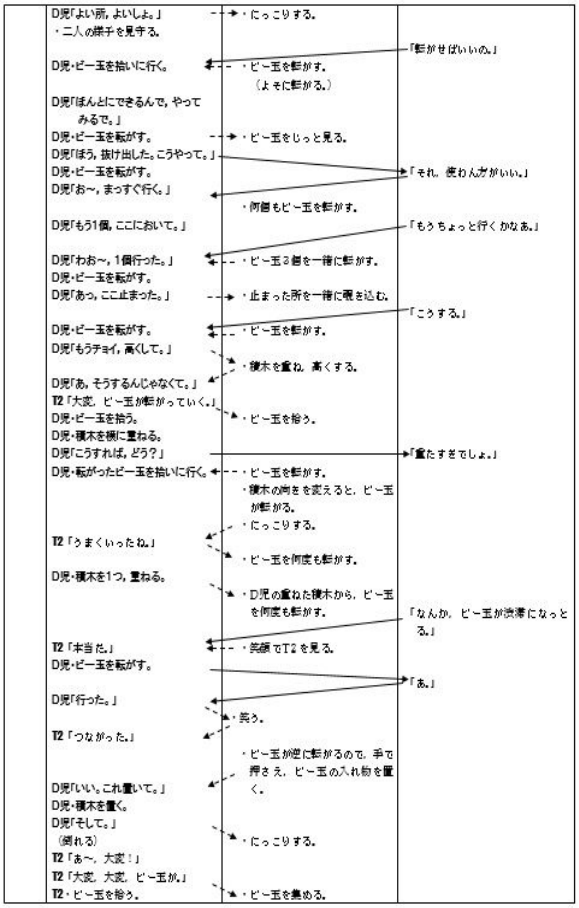
Ｂ児は，自分から遊びを選び，教師を誘って遊び始める。遊びの中で，笑顔や発語が増え，声も大きくなった。また，自分から誘ったり質問したりすることが増え，やりとりが長くなった。さらに，Ｂ児が「これ，したい。」と言った遊びに，教師が入るきっかけを与えるなど，教師が一緒に遊びに入らなくても，最後まで友達と遊ぶ姿も見られた。その際，担任（Ｔ１）と補助教員（Ｔ２）がかかわった。

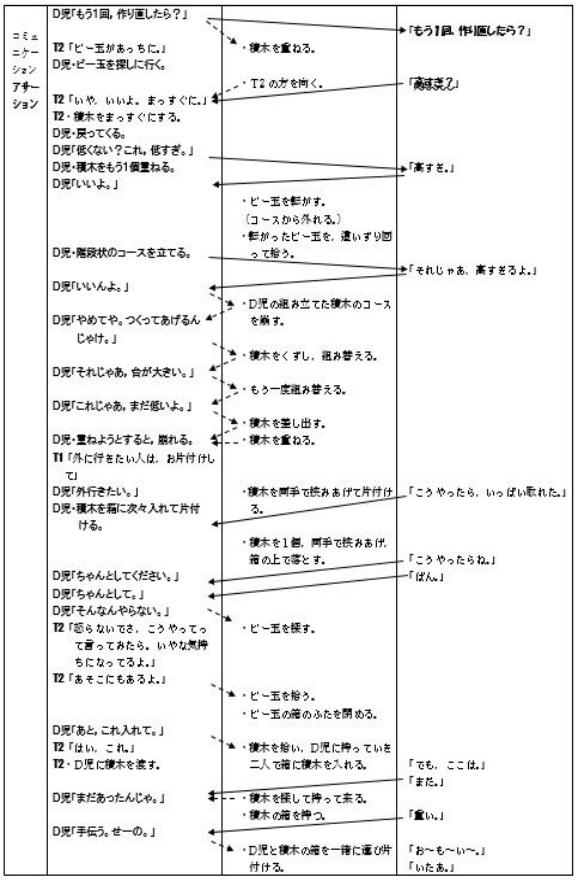
1月9日　（ 行動 ---→ 言葉 ⟶ ）　自分から誘う・要求

表5	教師（T1・T2）・他児	B児	
	言動	行動	言葉
コミュニケーションアサーション		積木	
	T2「あっちでする？（広い所で）ここ，椅子を持って来るでしょう。でも，今の開き方，とっても上手だったよ。」	・T2の顔を見る。	「ねえ，これここですればいいん？」
		・積木の箱を運ぶ。	「重い。」
	T2「どうぞ，ここならいいと思うよ」		「これ，やろう？」
	T2「うん」		
	T2「もっと高くする？」	・積木を重ねる。	「もういい？」
	T2「もっと高くできるよ。これくらい？もっと高くないとだめかなあ。もう1個，高すぎ？」	・もう１つ積木を重ねる。	
	D児「そしたら，むっちゃ高く。」		
	T2「あ～，こっち側が倒れるかな」		
	T2「でもそれで，上手くいく？大丈夫？」		「ピー玉で。」
	D児「待って，これにはやり方があるんよ。」		

	D児「よい所，よいしょ。」 ・二人の様子を見守る。	・にっこりする。	
	D児・ピー玉を拾いに行く。	・ピー玉を転がす。 （よそに転がる。）	「転がせばいいの。」
	D児「ほんとにできるんで，やってみるで。」		
	D児・ピー玉を転がす。	・ピー玉をじっと見る。	
	D児「ほう，抜け出した。こうやって。」		
	D児・ピー玉を転がす。		「それ，使わんががいい。」
	D児「お～，まっすぐ行く。」	・何個もピー玉を転がす。	
	D児「もう1個，ここにおいて。」		「もうちょっと行くかなあ。」
	D児「わお～，1個行った。」	・ピー玉３個を一緒に転がす。	
	D児・ピー玉を転がす。		
	D児「あっ，ここ止まった。」	・止まった所を一緒に覗き込む。	
	D児・ピー玉を転がす。	・ピー玉を転がす。	「こうする。」
	D児「もうチョイ，高くして。」	・積木を重ね，高くする。	
	D児「あ，そうするんじゃなくて。」		
	T2「大変，ピー玉が転がっていく。」		
	D児・ピー玉を拾う。	・ピー玉を拾う。	
	D児・積木を横に重ねる。		
	D児「こうすれば，どう？」		「重たすぎでしょ。」
	D児・転がったピー玉を拾いに行く。	・ピー玉を転がす。 ・積木の向きを変えると，ピー玉が転がる。	
	T2「うまくいったね。」	・にっこりする。	
		・ピー玉を何度も転がす。	
	D児・積木を1つ，重ねる。	・D児の重ねた積木から，ピー玉を何度も転がす。	「なんか，ピー玉が渋滞になっとる。」
	T2「本当だ。」	・笑顔でT2を見る。	
	D児・ピー玉を転がす。		「あ。」
	D児「行った。」	・笑う。	
	T2「つながった。」	・ピー玉が逆に転がるので，手で押さえ，ピー玉の入れ物を置く。	
	D児「いい。これ置いて。」		
	D児・積木を置く。		
	D児「そして。」 （倒れる）	・にっこりする。	
	T2「あ～，大変！」		
	T2「大変，大変，ピー玉が。」		
	T2・ピー玉を拾う。	・ピー玉を集める。	

コミュニケーションアサーション	D児「もう1回，作り直したら？」		「もう1回，作り直したら？」
	T2「ピー玉があっちに。」	・積木を重ねる。	
	D児・ピー玉を探しに行く。		
	T2「いや，いいよ。まっすぐに。」	・T2の方を向く。	「高すぎ？」
	T2・積木をまっすぐにする。		
	D児・戻ってくる。		
	D児「低くない？これ，低すぎ。」		
	D児・積木をもう1個重ねる。		「高すぎ。」
	D児「いいよ。」	・ピー玉を転がす。 （コースから外れる。） ・転がったピー玉を，遠いずり回って拾う。	
	D児・階段状のコースを立てる。		「それじゃあ，高すぎるよ。」
	D児「いいんよ。」	・D児の組み立てた積木のコースを崩す。	
	D児「やめてや。つくってあげるんじゃけ。」	・積木をくずし，組み替える。	
	D児「それじゃあ，台が大きい。」	・もう一度組み替える。	
	D児「これじゃあ，まだ低いよ。」	・積木を差し出す。	
	D児・重ねようとすると，崩れる。	・積木を重ねる。	
	T1「外に行きたい人は，お片付けして」		
	D児「外行きたい。」	・積木を両手で挟みあげて片付ける。	「こうやったら，いっぱい取れた。」
	D児・積木を箱に次々入れて片付ける。	・積木を1個，両手で挟みあげ，箱の上で落とす。	「こうやったらね。」
	D児「ちゃんとしてください。」		「ばん。」
	D児「ちゃんとして。」		
	D児「そんなんやらない。」	・ピー玉を探す。	
	T2「怒らないでさ，こうやってって言ってみたら，いやな気持ちになってるよ。」		
	T2「あそこにもあるよ。」	・ピー玉を拾う。 ・ピー玉の箱のふたを閉める。	
	D児「あと，これ入れて。」		
	T2「はい，これ。」	・積木を拾い，D児に持っていき二人で箱に積木を入れる。	
	T2・D児に積木を渡す。		「でも，ここは。」 「まだ。」
	D児「まだあったんじゃ。」	・積木を探して持って来る。 ・積木の箱を持つ。	「重い。」
	D児「手伝う。せーの。」	・D児と積木の箱を一緒に運び片付ける。	「お～も～い～。」 「いたあ。」





集団行動状況	T2「片付いたね。」		
		・うなずく。	「うん。」
		・帽子をかぶり，外に出る。	
		バドミントン	
		・走って，正月遊びの遊具置き場に行く。 ・ラケット２本，羽を持ち，笑顔で，スキップして戻る。	
			「先生（と一緒にする）」
コミュニケーション聞く	T2「読む？さっきの続きじゃね。」		
		・うなずく。 ・羽をT2 に見せる。	「持ってるよ。」
	T2「目標は何回ですか？」		
			「ええっと，最初は 10 回，10 回できたら 20 回」
	T2「素敵！」		
			「どんどん，どんどん増える。」
	T2「増えていくのね。素敵！」		
	T1・外に出る。		
	T1「転がしドッジがしたい人がいるから，線を書いてくる。それが済んだら行くから，一人でボンって練習しようってね。」	・T1に走り寄り，ラケットを手渡そうとする。	
		・うなずく。 ・T1 の行く方へ近寄り，ラケットで円を書く。 ・転がしドッジの線の上を歩く。	
	T1「おまたせ。」		
		・ラケット渡し，小走りで広い所へ行く。	
	T1「よし，頑張ろう。」		
	T1（竹馬の谷の対応）		
			「やるよ，言った。」
		・眠れっ面になる。	
			「やるよ。」
	T1・ラケットを構える。		
		・羽をラケットに押し当てる。 ・羽を打つ。	
	T1「ちょっと，お弁当食べたからね お腹が重くなりました。」		
		・羽を打つ。	
	T1「1，2，3」		
	T1（友達を探している幼児の対応）	・ラケットで線を描く。 ・線を隔てながら待つ。 ・ラケットを前に出し，打つ構えをする。	
	T1「1，2，3，あ，惜しい。」		
	T1「1，2，3」 （一緒に遊ぼうとE児F児呼ぶ）	・しゃがんでラケットで地面を切るようにする。 ・立ち上がる。	
	T1「Bちゃんに，聞いてみて」		

			「やってみて。」
	T2「はい，やってみましょう。これは，こうやってくるっと回します。」		
	G児「あっち，黄色いとこだよ」		
	T2「じゃあ，黄色い所でやりましょう。」	・こま用の板がある所に行く。	
			「できない。」
	T2「いくよ，Bちゃん。」		
	T2・こまを回す。		
			「あれ～、　」
	T2「逆さになる。」		
		・回そうとするが回らない。 ・投げこまを持ってくる。	
		・こまを投げるが，回らない。	
仲間関係維持	T2「もう１回，やってみたら？」		
			「絶対できん。」
	T2「巻き方，見ててあげる。」		
		・こまに紐を巻く。	
	T2「上手じゃん。巻き方。その手つき，なかなかよろしいですよ。」		
		・こまを投げるが回らない。	
	T2「残念！」		
			「できん，できん。」
		・隣の友達が投げたこまを見る。	
	T2「じゃあ，きれいに巻いて，一緒にやってみよう。きれいに巻けたら教えて。」	・紐をぐちゃぐちゃに巻く。	
		・丁寧に紐を巻き，T2 にこまを見せる。	
	T2「ＯＫ！右手で押ってください。足を開いて，シュッといくからね。」		
			「回せんもん。」
	T2「大丈夫，シュッ！」		
	T2・B児の手を押す，一緒にこまを投げる。	・T2 と一緒に，こまを投げると回る。	
	T2「ほらあ。」		
		・ニコッとし，紐でこまを押ち上げようとするが，こまが落ちて止まる。	
	T2「ああ残念！」		
			「ありゃ。」
仲間関係維持	T2「もう１回チャレンジ。」		
		・紐を巻く	
	T2「巻くの，すごく上手だから，投げ方覚えたら，Ｂちゃん，絶対できるね。大丈夫よ。ファイト！」		
		・こまを投げると回る。	
	T2「わあ，できたじゃん。回ったじゃん。」		
		・照れ笑いをする。	
	T2「離れましょう，できん，できん」	・回っているこまに顔を近づけ，じっと見る。	

	E児「入れて」		
			「いいよ。」
	E児F児・ラケットを取りに行く。		
		・T1と打ち合う。	「斜めになった。」
	T1・うなずく。		
	E児F児・戻ってくる。		
	T1「今ね，目標は 10 回なんよね。Ｂちゃん，10 回続けるチャレンジしています。だから，飛んできたら，みんな取ってください。」		
	E児・羽を下に打ち付ける。		
	T1「わあ，下からポオンがいいよ。」		
	（午後は，正月遊びは休みのルールだと，他の教師が呼えに来る）		「やろう。」
		・T1 の線へ行き，眼を引っ張る。	「やろう。」
		・口をとがらせ，眠れっ面でラケットを地面に落としよそへ行く。 ・転がしドッジの輪の中を，歩き回る。	
	T1「あれ（ラケット）どうする？」		
		・T1 のところへ行く。	
	T1「Ｅちゃん，来て。お昼からお正月遊びはお休みだった。間違えちゃった，先生。」		
	T1「Ｂちゃん，ごめん。お昼からお正月遊びはお休みでした。があん。」	・ラケットをT1 の顔に当てる。	
	T1「鼻がつぶれます。」		
	T1・ラケットを押つ。	・ラケットから手を離す。	
	T1「10 回チャレンジは，また来週のお楽しみにしようか。」		
			「ウンチ」
	T1「また，すぐウンチとか言う。」		
	T1・B児のお腹を触る。	・こそこそする。	
	T1「お正月遊びはお休みだから，他のことして遊ぼう。」		
		・T1 の手を引っ張る。	「こっち」
集団行動状況	T1「これ，片付けんといけんじゃろ。一つずつ，よし，片付けに行こう。」		
		・ラケットを受け取り，走って片付ける。	
		こま回し	
			「これ，変なこま。」
	T2「これ？変？変に見える？」		
		・うなずく。	
	T2「ちょっと違うね。形が，やってごらん。」		
			「ぜんぜんできん。」
	T2「そう？」		

	言った人は。」		
	T2「さすが6歳。」		
	E児「今日，誕生日なんよ。Bちゃん」		
	T2「そうよね。誕生日にいろいろなことができて，うれしいね。」	・回っているこまに紐をかけ，こまを引き上げて手に取る。	
	G児「Gね。もうすぐ誕生日」		
	T2「そうだね。何日ですか？」	・振り返ってG児とT2 の話を聞く。	
	G児「1月23日」		
	T2「よく覚えてたね。先生も覚えてたよ。1・2・3だと思って。お楽しみだね。」		
仲間関係開始	G児「うん。」		
			「もう，お楽しみなくなった。」
	T2「そんなことないよ。今日帰って，なんか，いいもの食べるんじゃなかった？」	・こまに紐を巻く。	
コミュニケーション聞く	E児「ケーキ」		
	T2「ねえ。」	・笑顔でT2 を見る。	
			「あと，もう１個，お楽しみがあるんよ。」
	T2「なあに？」		
			「誕生日プレゼント」
	T2「いいなあ。」		
		・こまを投げるが回らない。	
	T2「残念。」		
	T1・場所を離れる。		
		・こまを片付け，T1 を追いかける。	
		転がしドッジ	
	T1・転がしドッジをしている輪を通る。	・T1 に追いつく。	「これ，したい。」
仲間関係開始	T1「入れてって言ったらいいよ。」		
			「入れて。」 （小さい声で友達に聞こえない。）
	T1・転がしドッジをしているH児Ｉ児を呼ぶ。		
	T1「Ｂちゃんが，何か言ってるよ。」	・H児Ｉ児を見る。	
	T1・B児の背中に手を当てる。		「入れて。」
	H児「いいよ。」		
		・飛び跳ねて輪の中に入る。 ・ボールを見ながら投げる。	
	T1・竹馬の練習をする。 T1・時々，B児の様子を見る。		
		・片付けになるまで，友達と遊ぶ。	

オ　B児のソーシャルスキル尺度の評価

B児の指導前と指導後のソーシャルスキル尺度の評価点は表５のとおりである。

表５　B児の指導前と指導後のソーシャルスキル尺度の評価点

幼児名	集団行動		セルフコントロール		仲間関係		コミュニケーション	
	指導前	指導後	指導前	指導後	指導前	指導後	指導前	指導後
B	1	2	5	5	1	2	1	1

カ　分析・考察

(ｱ) 全体を通して

表５のようにB児は，集団行動・仲間関係にお
いて評価点の上昇が見られた。

B児をありのまま受け止め，寄り添う援助をすることでB児は安心し，自分を出せるようになってきたと考えられる。また，質問したり遊びに入ったりする前に，具体的に望ましい言葉掛けの例を示した。そうすることで，自分から言葉を掛けることが増えてきた。以前は，自分から話し掛けることが困難だったB児が，自分から話し掛けたり，会話が続くようになったりしていることから，成功体験を積み重ねられたことや，教師が継続してかかわることが，B児の安心感につながったと考えられる。また，コミュニケーションスキルの評価点の上昇は見られなかったが，素点は上昇しているので，今後，評価点の上昇が予測される。以上のように，集団行動と仲間関係における評価点の上昇とB児の姿から，ソーシャルスキルが向上したと考えられる。

(ｲ) B児の積木で遊ぶ場面における教師の援助の変化について

B児は教師と一緒にいることで安心していると推察し，教師と遊びたい思いを受け止め，寄り添う援助を試みた。

教師がB児と一緒に遊び始めたところに，D児が「これにはやり方がある」と入って来た。B児がD児と遊ぶ中で，遊び方を見て学ぶ様子が見られた。この場面で，B児がD児を受け入れたととらえ，教師は側で見守る援助に切り替えた。

B児とD児のやりとりをする様子を見ながら，B児との距離をもう少し広げようとしたが，B児が教師に微笑んだり質問したりする姿から，側で見守り続ける援助を行った。すると，B児は時々教師に視線を向けながらも，その後もD児と一緒に遊び，最後まで協力して片付けた。

B児がD児を受け入れたととらえてからは，教師は共同作業者やモデルとしての直接的な援助から，側で見守る援助に切り替えた。そうすることで，B児がD児の遊び方を見ながら積木を積み重ねたり，やりとりをしたりするきっかけとなり，仲間関係を築くことにつながった。その後，二人の遊ぶ姿を見て，少し距離を広げる援助に変えようとしたが，B児の表情や視線，発語などから，B児にとって教師が精神的に安定するよりどころであると推測し，側で見守り続ける援助を行った。ヴィゴツキーは，周囲の友達の考え方ややり方を見て学び，模倣することでできるようになることや，子どもの発達にともなって教授の形態も変わることを述べている。今回の援助も，B児の行動や表情から内面を探り，援助の仕方を変えたことで，B児の友達とのかかわりが増えたと考えられる。

Ⅴ　研究のまとめ

１　成果

○　「幼児のソーシャルスキルの尺度と教師の援助を関連付けた表」（表６）をもとに，幼児の
重点的に援助したい部分や援助の仕方を教師
間で共通認識することで，よりよい援助につながった。

○　「幼児のソーシャルスキルの尺度と教師の

援助を関連付けた表」（表６）を活用し，幼児の行動（表情・目線・しぐさ・言動など）から，内面を読み取り，表に示してある援助を行うことは，幼児のソーシャルスキルを向上させることに有効であると分かった。

２　課題

○　抽出児への援助をする中で，周りにいる幼児にもソーシャルスキルについての援助を行
う場面があり，一斉で指導する必要性を感じた。集団行動の「ありがとう」や仲間関係スキ
ルの「あいさつ」など，日常生活の中から重点
項目を決め，図１（ｐ.２）の指導技法で一斉保育をすることも，今後検討したい。

○　「幼児のソーシャルスキルの尺度と教師の援助を関連付けた表」（表６）の評定の仕方について，望ましい姿（評定４）しか表記しておらず，１～３段階の表記が無いために評定に迷うことがあった。今後は，１～３段階の具体像についても表記できるよう検討していきたい。また，教師の援助についても，実際保育をする中で追加，修正し，より活用しやすい表に改善していきたい。

引用文献

1）文部科学省『小学校学習指導要領解説　特別活動編』東洋館出版社，2008 年，4 頁

2）荒木秀一『ソーシャルスキル早わかり』小学館, 2011 年，6 頁

3）上野一彦・岡田智　編著『ソーシャルスキルマニュアル』明治図書，2006 年，18 頁

4）　柴田義松『ヴィゴツキー入門』寺子屋新書，2006 年，191 頁，29 頁

5）ヴィゴツキー『新訳版　思考と言語』柴田義松新訳版　新読書社，2001 年，304 頁

6）文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館，2009 年，215 頁

参考文献

①　文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館，2009 年

②　文部科学省『幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続の在り方について』2010 年

③　文部科学省『幼児理解と評価』ぎょうせい，2010 年

④　荒木秀一『ソーシャルスキル早わかり』小学館, 2011 年

⑤　上野一彦・岡田智　編著『ソーシャルスキルマニュアル』明治図書，2006 年

⑥　上野一彦　監修　酒井幸子・中野圭子編著『発達障害のある子へのサポート事例集　幼稚園保育園編』ナツメ社，2010 年

⑦　金瑛珠『日本保育学会大会研究論文集』第 54 号「保育の場で育つ，ということ（1）―ヴィゴツキーの発達
の最近接領域の視点から―」2001 年，508 頁～509 頁

⑧　柴田義松『ヴィゴツキー入門』寺子屋新書，2006 年

⑨　田中真介　監修　乳幼児保育研究会編著『発達がわかれば子どもが見えてくる』ぎょうせい，2009 年

⑩　田中裕子『愛知教育大学幼児教育研究』第 17 号「日常保育における幼児同士の人間関係を育む試み―ソー
シャルスキルトレーニング (SST) の技法を用いて―」2013 年，49 頁～56 頁

表６　　幼児のソーシャルスキルの尺度と教師の援助を関連付けた表

評定４…よく当てはまる，３…だいたい当てはまる，２…あまり当てはまらない，１…ほとんど当てはまらない

		望ましい幼児の姿	評定				望ましい姿に導くための教師の援助	
			4	3	2	1	・教示　○モデリング　＊教師の配慮	評　価
集団行動	対人マナー	よいことをしてもらったら「ありがとう」と言って感謝できる					・「ありがとう」と言ったり言われたりすると気持ちがよいことを伝える。 ○笑顔で「ありがとう」とやってみせる。	・「ありがとう」と言われて，～ちゃんも嬉しそうだったね。
		状況に合わせた適切な言葉づかいができる （目上の人に敬語を使う、知らない人になれなれしい言葉づかいをしないなど）					・目上の人には「貸してください」と丁寧に言うことを伝える。 ○朝，先生におじぎをしながら「おはようございます」とやってみせる。	・丁寧に言えたね。先生には，どういう言葉がよかったかな。
		人のものを借りるときはきちんとことわることができる					○「～ちゃん，貸して」とやってみせる。	・「貸して」と言ったから，友達も気持ちよく貸してくれたね。
	状況理解・こころの理論	場の雰囲気を感じることができる （緊張感や静寂，のんびりとした感じなど）					・「大切な式だから，静かにしよう」など，具体的に伝える。	・～ちゃん上手だから，一緒に見てみよう。頑張れると嬉しいな。
		次の活動にスムーズに移ることができる					＊「ここまでしたら」「～分まで」と活動の区切りを前もって知らせる。	・自分でよく気付いたね。すぐ片付けができて嬉しいな。
		自分のした行動をふりかえることができる					＊何をしていたか，絵に描いて示し，行動を可視化する。	・～ちゃんがしたことが，よくわかったよ。
		相手の表情の違いに気づくことができる （にこやかな顔，こわい顔，緊張しているなど）					・表情を示したカードを見せる。 ・「こわい顔ってこうなんだね」とカードと表情を一致させる。	・～ちゃんがニコニコ笑っているね。嬉しそうね。 ・～ちゃんがしょんぼりしているね。悲しそうね。
		相手の気持ちを理解することができる （喜んでいる，悲しんでいる，怒っているなど）					・「こんな時、嬉しいよ」「悲しくなるよ」など，場に応じて伝える。	・～ちゃんが嬉しそうだね。喜んでいるね。 ・～ちゃんがしょんぼりしているね。悲しそうね。
	集団参加	途中でぬけたり，やめたりせずに仲間と遊びを続けることができる					○遊びに加わり一緒に遊ぶ。	・一緒に最後まで遊べたね。友達も喜んでいるよ。
		相手の話を終わりまで聞いてから話すことができる					・「この次に話を聞くから待っていてね」と伝える。 ＊「３つ話すよ」など、見通しをもたせて話す。	・最後まで聞けたね。嬉しかったよ。
		集団で遊ぶときなど，ゲームのルールを理解できる					・ゲームのルールを図で示し，具体的に知らせる。	・遊び方がわかったね。みんなで遊んで楽しかったね。
		ゲームなどの順番を守ることができる					・「～ちゃんの次よ」と見通しをもたせる。	・並んだら順番がきたね。もう１回してみる？
		与えられたルールに従ってゲームに参加する （ずるをしない，ルールを勝手に変えてしまわないなど）					・ゲームのルールを図で示し，具体的に知らせる。 ○ルールに従ったよい動きをやってみせる。	・～ちゃんに教えてもらった遊び方が，よくわかったね。ルールを守って遊ぶと楽しいね。
	役割遂行	仲間同士で決めたルール・決まりを守れる					・ゲームのルールを図で示し，具体的に知らせる。 ○ルールに従ったよい動きをやってみせる。	・～ちゃんに教えてもらった遊び方が，よくわかったね。ルールを守って遊ぶと楽しいね。
		当番や係りの仕事をやりとげることができる					・仕事の内容や順番が分かるよう手順表を示し，それを見ながら進める。 ○当番や係りの仕事をやって見せたり一緒にしたりする。	・ありがとう，みんなが助かるよ。
		仲間と協力しながら仕事（または課題）を行うことができる					・どんな役割があるか，何をしたらよいか伝える。	・頑張っているね。一緒だとよい考えが出るね。みんなの力でできたね。
セルフコントロール	感情のコントロール	ゲームなどの勝負ごとで自分の負けを受け入れることができる					・「負けたけど，たのしかったね」と伝える。	・みんなで頑張って楽しかったね。またしようね。
		いやなことがあっても，乱暴なことをしない （人をたたいたり，ものを投げつけたりなど）					・「たたきたくなったら，先に先生に言ってね」と伝える。 ＊「～が嫌だったね」と共感する。	・～ちゃん，投げなかったね。先生、嬉しいな。
		いやなことがあっても，人を非難したり騒いだりしない					・「～が嫌だったら，先生に言いに来てね」と伝える。	・～ちゃんが我慢できて，嬉しいな。
		友達がいやがることは言ったりやったりしない					・友達を嫌な気持ちにさせる言葉と，楽しませる言葉を確認しておく。	・言われて，嬉しい言葉がいいよね。
		感情的になっても，気持ちを上手く切り替えられる					・相手の思いを分かりやすく伝える。 ＊落ち着くまではそっとしたり，黙って隣に座ったりする。	・落ち着いたね，先生と一緒に遊ぼう。
	行動のコントロール	保育中，勝手に席を離れたり，そわそわ体を動かしたりしないで座っていられる					・「○の中に座ってね」「～分まで待ってね」など具体的に伝える。 ＊話をする時間を短くする。	・５分，じっとできたね。前より長く頑張れるようになって嬉しいな。
		保育中，関係のない物音や他の人の行動に注意がそれてしまわない					・「～ちゃん，こっちよ」と声をかけ，見る方向を示す。 ・視覚教材を用意する。	・望ましい姿の時に「～ちゃん，いいよ」「頑張っているね」と認め，励ます。 ・一生懸命していて嬉しいよ。
		保育中，注意を引きたくて騒いだり，ふざけたりしない					○望ましい態度をやってみせる。	・～ちゃん上手だから，一緒に見てみよう。頑張れると嬉しいな。
仲間関係スキル	仲間関係の開始	知っている人に挨拶することができる					○相手の顔を見てにこやかに挨拶をする。	・「おはよう」って言うと，気持ちいいね。
		視線を合わせて人と話すことができる					○視線を合わせて話したり，うなずきながら聞いたりする。	・～ちゃんと目が合って，嬉しいな。
		仲間や親しい人に微笑みかけることができる					○常に笑顔で接する。	・～ちゃんの笑顔は気持ちがいいね，元気が出るね。
		臆することなく仲間に話しかけることができる					・「楽しいね」など，どのような言葉を掛けたらよいか具体的に教える。	・友だちの所までいけたね。一緒に声を掛けてみようか。
		仲間を遊びに誘うことができる					○「～ちゃん，一緒に遊ぼう」など誘う姿を見せる。	・～ちゃんに気が付いたね。誘ってもらって嬉しそうだったね。
		遊んでいる仲間に自分から進んで加わることができる					・「入れて」「一緒に遊ぼう」と言うとよいことを伝える。 ○「入れて」と言いながら，仲間に入る姿を見せる。	・友だちの所までいけたね。一緒に声をかけてみようか。
	仲間関係の維持	仲間と会話を続けることができる					○一緒に仲間に入り，うなずきながら聞く。	・楽しかったね。また、一緒にお話しようね。
		仲間と冗談を言い合うことができる					○一緒に仲間に入り，笑顔で話す。	・楽しいね。～ちゃんは面白いこと言うね。
		友達が失敗したときなど励ましたりなぐさめたりできる					○「大丈夫，もう１回しよう」と声をかける。	・一緒にいてあげて，～ちゃんが嬉しそうだったよ。
		仲のよい友だちの好きな遊びや好きなものなどを知っている					＊それぞれのよいところや好きなことを話題にしていく。	・～ちゃんと一緒だね。
コミュニケーションスキル	聞く	先生の話や友だちの発表の内容を理解できる					＊短くわかりやすい言葉で，はっきり話す。	・よく聞いていると，わかりやすいね。
		聞かれたことに対してきちんと答えることができる					＊何を答えるとよいか，わかりやすいことばで聞く。	・～ちゃんの思いがよくわかって，嬉しかったよ。
	話す	言葉たらずでなく，話すことができる					・「僕のだから返して」など具体的に言うとよいことを伝える。 ＊聞いた話を絵に描き，ゆっくり話を聞く。	・お話がとても楽しかったよ。また聞かせてね。
		物事を順序だてて説明することができる					・幼児の話を聞き取り，順序だてた話し方で「～なのね」と返していく。	・それからどうしたの？　そうだったのね。よくわかって，嬉しかったよ。
	コミュニケーション	わからないことは質問できる					＊「何か困っている？」「聞いたらいいよ」と声をかける。	・聞いてよかったね。質問できて，先生，嬉しかったよ。
		くやしさや怒りを言葉で伝えることができる					・「～だからくやしいね」「～だから腹が立つね」など言い方を伝える。 ＊「～がくやしいね」「～が嫌だったね」と共感する。	・そうだったんだね。くやしかったね。～ちゃんの思いがよくわかったよ。
	話し合い	簡単な話し合いの内容に沿った発言ができる					・何について話し合うか，わかりやすくに伝える。	・～ちゃんの言い方はよくわかるね。同じように言えるといいね。
		話し合いにおいて全体の意見を参考にしながら結論を出すことができる。					・出てきた意見を，わかりやすく伝える。	・よく考えて決めたね。先生，嬉しかったよ。

『ソーシャルスキルマニュアル』（上野一彦・岡田智　編著　2006）
『発達がわかれば子どもが見えてくる』（田中真介　監修　乳幼児保育研究会　編著　2009）
『発達障害のある子へのサポート事例集　幼稚園保育園編』（上野一彦　監修　酒井幸子・中野圭子　編著　2010）
『幼児理解と評価』（文部科学省　2010）